

私はこのインドネシア派遣に参加できて本当によかったと思っています。

私は中学二年生の時に、ドイツ派遣にも参加させてもらっています。その時に、日本とは全然違う人々、生活、景色に出会いました。それ以来、そういうものをもっと知りたい、もっと触れてみたいと思っていました。だから、中学校を卒業する直前に派遣生募集の手紙が配られた時、絶対に参加したい！と思いました。頭の中で描いていた春休みの計画が全部吹き飛んでしまったほどに強い思いでした。

もちろん不安もありました。私はわりと人見知りで、何かのきっかけがないと上手く打ち解けられないからです。もし、その何かがなかったらどうしよう……ホストファミリーと上手く馴染めなかったら……。

しかし、それは杞憂でした。「アニメ」が私とホストシスターのエリをつなぐ架け橋となったからです。エリが日本語を話せたことも、打ち解けるまでは大きかったと思います。

エリはラブライバーです。私も少しだけならラブライブを知っていたので、「私、凜ちゃんが好き」と言われた時には、そこから会話することができました。他にも、エリとはよくアニメを見ながら「にこちゃん顔すごい」とか「この海未ちゃん怖い」とかいう話をしていました。出会ってまだ間もなかったのに、そんな他愛もない話を気楽にすることができて本当に嬉しかったです。

私は、架け橋になる何かがアニメ、ではなく、アニメが架け橋になるのだと思うようになりました。今回はラブライブでしたが、ドイツ派遣の時はセーラームーンでした。両回とも、一緒にアニメを見たり、キャラのものまねをしたり、推しキャラについて語ったり、とアニメでつながっていた時間は長かったように思えます。これからもアニメを架け橋に、いろいろな国や地域の人たちとつながりたいと思います。改めて日本の文化 ANIME が持つ力の大きさを感じました。

もちろん、共通することだけではなく、全然違っていて驚いたこともあります。

まずはトイレです。一部のレストランやホテルでは日本と変わらないものでしたが、多くは日本と違ってました。水洗トイレだけれどトイレトペーパーは備え付けておらず、代わりにシャワーがついているもの。エリの家トイレもこのタイプでした。パッと見た目は日本のトイレと変わらないので、ペーパーを持たずに入って、どうしよう……と青くなったことも一度や二度ではありません。写真でよく見る、浴槽のようなところから水を汲んで流すものもありました。港や学校はこのタイプでした。暗いし狭いし足元がびしょびしょだしで使うのを遠慮してしまった場所もありましたが、

実際使ってみると案外普通に使うことができました。写真を見た時の感想は、本当にこれはトイシなのだろうか？使えるのか？でした。しかし、ちゃんと使えたし、暗さも日本にもある程度でした。やはり写真で見ただけ、話を聞くだけでは、本当のことは知りきれないなと思いました。

もう一つは、食についてです。私は、朝食は家で取り、昼食は教室でお弁当、帰宅してからおやつを食べ、夕食も家で取る、というのがほとんどです。しかし、エリの家では、朝食を近くの店へ食べに行くことが多くありました。昼食も学校の食堂や店に行きます。まず、教室で食べるのが禁止なのだそうです。おやつは、私の感覚では普通の食事と変わらないものでした。夕食も毎日外で食べていました。食事時には店がわりと混んでいたのも、毎食外で食べる人は少なくないのかもしれませんが。また、麺類が多く、野菜はほとんど食べませんでした。果物は、日本で見られるものはあまりなかった代わりに、日本では見られないものがたくさんありました。それぞれ新しい味、食感でとてもおいしかったです。

このように、実際に行ってみないとわからない発見もあったし、エリとも仲良くなれたので、参加できて本当によかったと思っています。インドネシアを発つ日には、思わず涙があふれてしまったほど、インドネシアが大好きになっていました。エリとは次いつ会えるかわかりませんが、今でもたまに LINE でやりとりしています。いつかまた会いたいです。会ってラブライブで盛り上がりたいたいです。

最後に、この事業に関わったみなさん、私の両親、そしてホストファミリーに。ありがとう！

Terima Kashih !